

令和3年度事業計画書

札幌市若者支援施設

令和3年度 事業計画書

〔若者支援事業課〕

1. 事業方針

「居場所のサイコウと新たなステージへの飛躍」

失われた居場所と機会を取り戻し、更なる飛躍につなげるために中期的に取り組む。

令和2年度は、これまでのアウトリーチ活動を発展させた居場所拡充事業と「子ども・若者の権利」を軸とした若者の社会参加促進事業を中心にさまざまな取り組みに着手した。居場所拡充事業では児童養護施設など外部組織と協働した居場所の運営をスタートし、社会参加促進では小規模ながらも若者が主体的に社会と関わるためのきっかけづくりを実施するなど一定の事業効果を発揮している。

しかし、昨今のコロナ禍により生活そのものへの安心感やコミュニケーションの機会を失った若者も多く「社会と関わり、自己実現していく」というステージに向き合うことが困難な状況が顕在化しているところである。これらのことから若者支援事業課では、令和3年度からの2カ年スパンで計画的・段階的に取り組みを進め「失われた居場所と機会」を取り戻すことを目指す。

まず、居場所機能の拡充については、まだ施設利用経験がなく出会えていない若者や社会や他者とのつながりを求めている者にスポットをあてていく。併せて新たな取り組みとして、直接対面の場や集会することにこだわらず、オンライン環境を活用することで距離的・時間的なハードルを下げさまざまな若者と出会うことに注力していく。

次に、社会参加については意図的に段階的な事業展開を行う。初期段階として居場所を確保した若者が自分にとって居心地の良い場所を作る経験から「まさに自分自身に起きていること」に気づくきっかけづくりを行い、次のステップとして、気づきの範囲を広げながらさまざまな人と対話を重ね、多様な価値観にふれながら社会に若者の声を届ける経験を重ねる機会を創出する。

いずれの項目についても、当法人がこれまで築いた経験を活かしリーダーシップを発揮して取り組みをけん引しながら、市民の方との協働を進め、広くきめ細かな「誰一人取り残さない若者支援」のネットワークの構築を目指す。

ステージ1 (令和3年度)

若者を支える基盤となる「居場所の拡充」をさらに進め、さまざまな人や物事との出会いをきっかけとして社会の変化に目を向ける機会をつくる

ステージ2 (令和4年度)

居場所を起点として「子ども・若者の権利」に係る、若者と市民が対話する場づくりを行い、若者の主権者意識を高める

2. 重点目標

事業方針に基づき、以下の点を令和3年度の重点目標とする。

(1) 地域活動等事業

若者の居場所機能の拡充およびユースワークの理念の共有については、複数年度で達成されるものと考え関係づくりに臨む

①運営開始している2拠点については、以下2点に注力する。

ア) ユースワークの理念の共有を進め、Youth+スタッフから現地スタッフの方に運営主体をシフトしていく。

イ) さまざまな背景を持つ若者個々の状況に適した出会いや体験活動を提供しながら社会に開かれた場を戦略的に運営していく

②現在、運営開始に至っていないところは以下のことを念頭に置き事業を進める。

ア) 「居場所」の概念を再考し、物理的な場所の獲得だけではなく、そこで出会う「取り組み」「人」はどのようなものかを明確にしていく。

イ) 「なんのために協働する必要があるか」を十分に検討し、目的達成の手段としての協働に焦点を合わせる。

(2) 施設運営等事業

①若者自身が「子ども・若者の権利」を自然な形で体感できる機会を増やし、意見表明によって社会が変わる実感を獲得できる仕組みをスモールステップで展開していく

社会参加ー社会参画への発展プロセスを重視し、心理的・物理的ハードルの低いものから主体的な活動までをわかりやすく準備し、育成するデザインを行う。

(職員自身がプライベートでも参加・参画したくなるような仕組みをつくる)

②さっぽろの若者支援のトップリーダーとして事業推進し「発信力」「影響力」を高める

若者の一人ひとりと深く向き合いながら、先駆的な取り組みにチャレンジを続けるトップリーダーとしての姿勢・立ち位置を再認識し、立ち止まることなく取り組みを進め、他都市との課題共有や実践交流を含めた新たなスタイルを生み出す影響力や、人や組織を動かす発信力を高めていく。

③デジタルリソース・データを最大限に活用した効率的・効果的な運営

<事業的側面>

ア) web 会議システムの事業利用の本格化、意見集約等 SNS の活用方法の見直しを行い、情報リテラシーを保持しながら、いずれの事業実施においても物理的距離・時間・身体・経済的制約から若者が解放され参加できる環境をつくる。

イ) 来館・利用者証発行という「施設に紐づいた利用者」という概念から離れ、より広範囲、多様な若者の利用を獲得する。(住民基礎台帳比：6.2%から3ポイントアップ)

<管理的側面>

- ア) 情報リテラシーを保持した上で、デジタルリソースを積極的に活用し効率化を図り、主たる対象である若者と直接接触する時間を捻出する。
- イ) 課内各施設間における職員の実践・技術交流を促進し、職員一人ひとりの経験値の幅を広げる。

3. 現環境下における事業実施方法等の対応策

with コロナの時代において、これまでの集合型事業に固執することなく、デジタルリソースを積極的に活用した事業展開を推進していく。併せて既存施設での事業実施にこだわらず、柔軟なアイデアを持って物理的な距離や時間を超え、広範囲の利用者獲得と事業参加における選択肢を拡大することにより利用者および事業参加者の利便性を高めていく。

4. 数値目標

世界的なコロナ禍において、Youth+全体の利用者総数は前年度比で2割減となった。令和3年度においても、この状況が大きく変化することはないが、人類がこの社会情勢に対しあらゆる手段や対策を講じて適応し、これまで停滞していた人の動きは緩やかに回復していくことも予想に難くない。当課の利用者層は社会の変化に柔軟に対応し得る若者世代であることを鑑み、デジタルリソースの活用によって、より多くの若者の利用や参加の促進を図り目標達成を目指す。

項目	令和3年度 目標	令和2年度 2月末時点
①利用証の発行を受けた若者等登録者数	11,000人	9,596人
②若者登録者の延べ利用者数	150,000人	117,444人
③新規に相談を受けた自立支援登録者数	400人	268人
④進路決定及び最適な支援機関につながった困難を有する若者数	345人	250人
⑤交流促進プログラムに参加した若者の延べ人数	6,500人	4,170人
⑥社会活動および育成プログラムに参加した若者の延べ人数	3,000人	2,367人

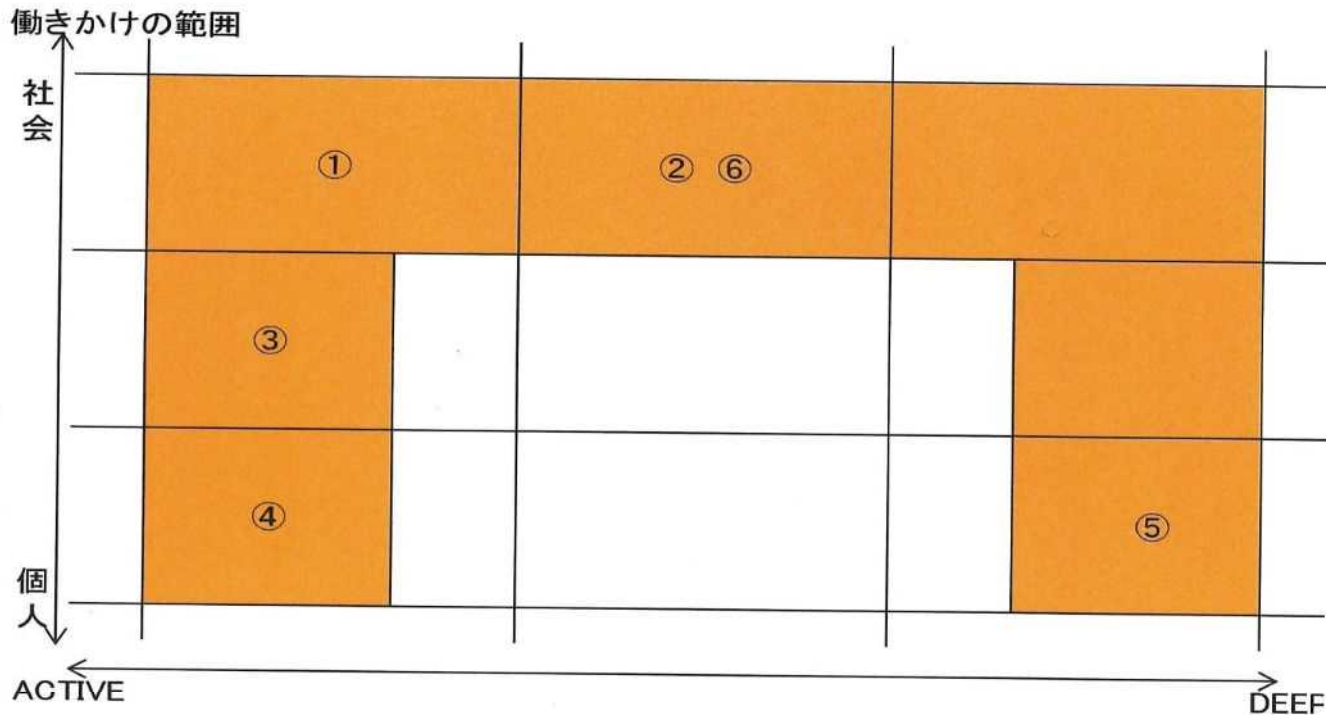
「若者支援施設事業における現状の振り返りと令和3年度に向けて」

私たちの仕事の範囲を現在と未来に渡って可視化したのがF-Mapである。

※「F」は、未来（F:future）と考案者（福井主任）の頭文字

Youth+全館事業の取り組み

1. 令和3年度事業座標



特色のある事業

- ① 社会参加促進事業 育成プログラム(提案型)「オープンミーティング」
- ② 社会発信型事業 「子ども・若者の権利フォーラム」
- ③ 交流促進事業 「他都市との実践交流・意見集約」
- ④ 社会参加促進事業 育成プログラム(プロジェクト型)
「ユースワーカー養成講座」
- ⑤ 自立支援事業
- ⑥ 調査研究事業 「若者の声発信」

2. 過年度事業に関する評価

各 Youth+においては、地域性や利用者ニーズに合わせ、中心部領域の役割を果たしてきた。それら各館の取り組みだけでは情報の行き届かない層に対するメッセージや「子ども若者の権利」等共通課題に取り組むことをテーマとする全館共通事業を実施した。

コロナ禍により集合事業の実施は困難であったが、利用者の安全確保を第一に工夫を重ね、オンライン等の活用により地域的、年齢層的に広範囲の参加者獲得につながった。事業の質においては一定効果を上げることができたと考えられるが、量的な評価については必ずしも十分とはいえない状況であるため、今後一層の事業拡充を行う必要がある。

また、他都市を含めた多くの若者やその支援者との事業交流により「若者のエピソード」を集め、

発信することが、今後の若者支援事業において重視されるべき課題であることが明らかとなった。

3. 施設運用等事業重点目標における方針・計画

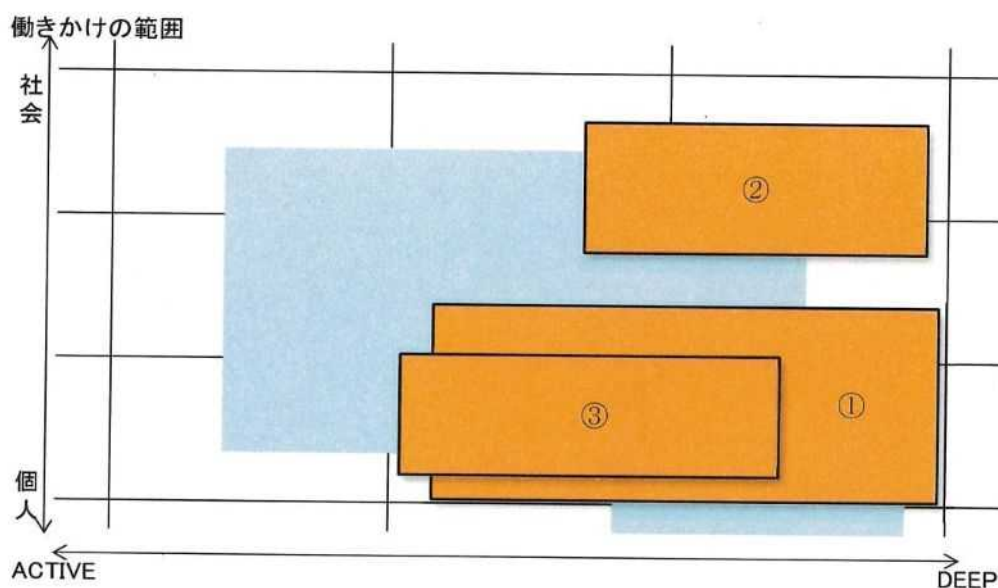
「子ども・若者の権利」を自然な形で体感できる機会の増加と「発信力」の向上について

施設利用者に理解される施設としての認識が高まる一方で、その実践を広く発信し、社会に還元していく。それにより若者のみならず、全ての市民が参画し、「子ども・若者の権利」を支える社会を作っていく。

「若者のエピソード」を発信していく取り組みについては、課内プロジェクトとして実施する。若者の悩みや葛藤、それに対する職員の係わりについてのエピソードをストーリーとしてまとめ、発信していくことにより、リアルな若者の姿を伝える。この取り組みにより、広く市民の方の若者支援への共感性を高め、若者支援施設に対する質的な評価向上を図る。

これまでどおり直接対面することの重要性や効果性についても担保しながらオンライン・デジタルの活用によって、より多くの若者や市民の方に参加いただける事業の提供の本格化し、量的な事業強化だけではなく、質的な強化も狙う。

1. 令和3年度事業座標



特色のある事業

- ①交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型「イベント企画ボード」
- ②交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 居場所拡充事業「ミニプラ（からんこえ）」
- ③社会参加促進事業 育成プログラム② 社会意識ボトムアップ「トピックワークショップ」

2. 過年度事業に関する評価

社会情勢を鑑み、規模を縮小せざるを得ない、または事業を拡大していくことが難しい状況が続いたが、その中でも実施した事業では次年度以降につながる課題を見出した。また、グループ活動を通じた成功体験の創出が効果的に若者に働きかけたため、次年度も継続したい。

3. 施設運用等事業重点目標における方針・計画

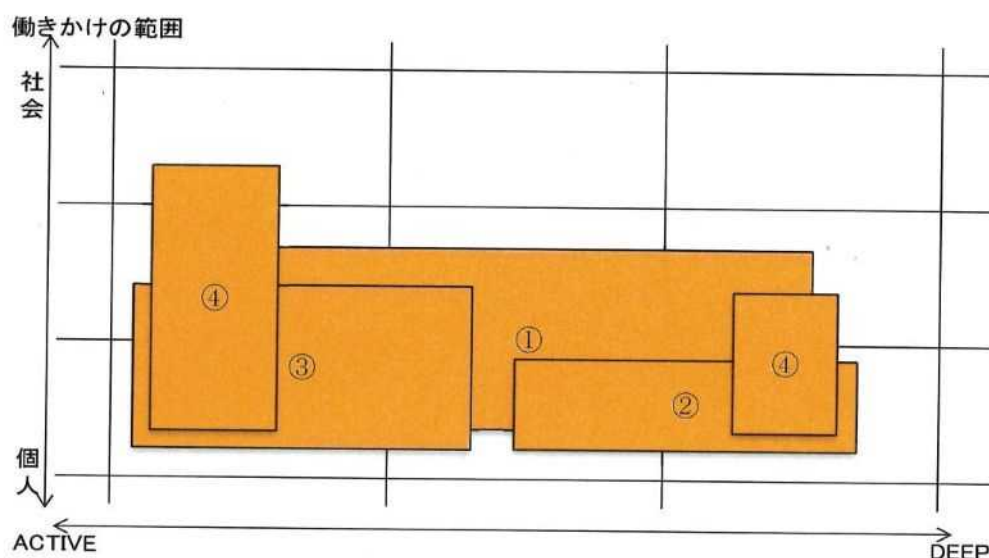
(1) 「若者の活動拠点の再構築と更なる拡大を」

ユースワークをとおして希薄になっている若者との関係を取り戻すことで、若者が安心して過ごせる居場所を、オンライン・オフライン問わず構築していく。

(2) 「若者が一步を踏み出すことをサポートする」

若者が初めてセンターを利用することや参加したことの無い事業へ参加すること、あるいは自主活動のスタートなど、何かを初めることとそれによって得られる成功体験を積むことへの後押しに注力していく。

1. 令和3年度事業座標



特色のある事業

- ①交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型「アカシア TIME」
- ②交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型「居場所拡充事業（ミニプラ）」
- ③交流促進事業 交流促進プログラム グループ育成型「みんなの〇〇部」
- ④社会参加促進事業 地域の社会活動への参加促進 地域事業への参加「地域連携季節事業」

2. 過年度事業に関する評価

社会情勢の影響から対面での事業開催を中止せざるを得ない状況が続き、「食事業」や「イベント型事業」、「地域事業」の実施ができなかった。一方で「居場所型事業」「居場所拡充事業」においては、児童会館卒業者等このような状況だからこそ居場所を必要とする若者がおり、安全対策を徹底した上で開催した。特に、「居場所拡充事業」においては、ここ数年で培ってきた「人とのつながり」を最大限に活かしたことで、新たな取り組みとして予定以上に進めることができた。また、昨年までは、アウトリーチから施設へとつながる若者のケースが多く、自立的支援を必要とする若者に特化した事業を展開してきたが、今年度は今まで利用の少なかった目的をもつアクティブ層の若者が増え、若者同士（自立的支援が必要な若者とややアクティブ寄りの若者）がともに交流を図り成長する姿が見られた。

3. 施設運用等事業重点目標における方針・計画

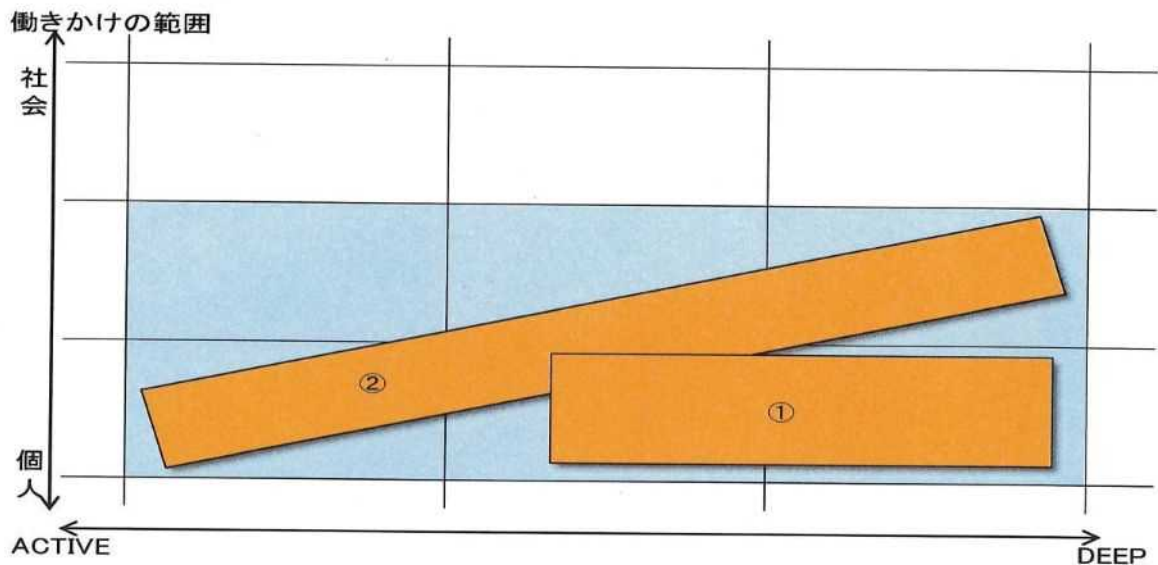
(1) 「若者が若者に影響を与える機会を創出していく」

ロビーワークの強化と若者に関する情報共有を迅速に行い、若者一人ひとりの人格・個性を理解し、若者同士をマッチングさせていくことに注力していく。

(2) 「日常における若者の活動から、発展した取り組みへとつなげていく」

若者自身の「やってみたい」を発見し形づくる。地域リソース（人・場所）を最大限に活用し、若者と地域の大人（理解者）をマッチングさせていくことに注力していく。

1. 令和3年度事業座標



特色のある事業

- ①交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 「居場所拡充事業」アウトリーチ事業
- ②社会参加促進事業 育成プログラム① 初期体験型 「ポプラ会議」

2. 過年度事業に関する評価

ロビーを利用している若者が、個人から集団となり、若者自身が自発的にイベントを企画し、実現した。個人の若者の活動が他の若者にも波及していった。

居場所拡充事業や家庭訪問で、若者と職員との関係構築ができつつあるが、若者と施設とのつながりを作ることは難航した。

施設は若者自身がやりたいことを実現する場として、困難を抱える若者に対しては職員との関係構築を図り、Youth+が居場所の一つとして認識してもらえるようなかわりを継続していく。

3. 施設運用等事業重点目標における方針・計画

(1) 「ロビーという空間から、やりたいができる場を創出していく」

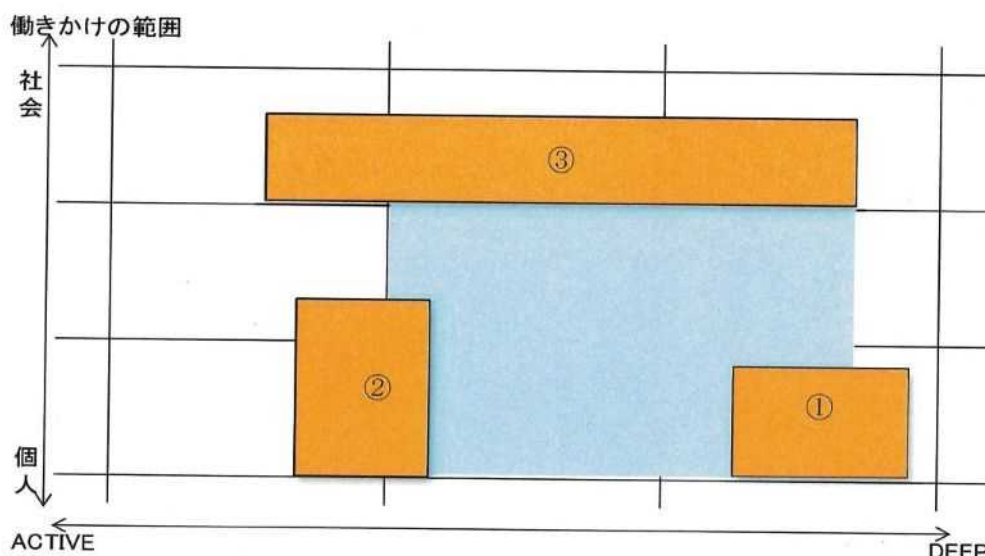
ロビーの空間を若者とデザインし、自習環境の整備およびひとりでも多人数でも過ごしやすい空間づくりを若者とともに実施していく。

ロビーを利用している若者に対して、ユースワーカーがアンテナを張り巡らし、若者の意欲を引き出す。そして、若者とユースワーカーと一緒に形作り、実行をする。ポプラ会議においては、若者から上がった議題について、若者が主体的に施設運営にかかわる意識を育む。

(2) 「オンライン事業の推進」

Youth+にアクセスが難しい若者にも親しみを持つきっかけとなるようオンラインを活用していく。また、オンライン環境が十分に整っていない若者に対しても配慮をし、オンライン・オフラインの同時開催するなど情報を届ける仕組み作りをしていく。

1. 令和3年度事業座標



特色のある事業

- ①交流促進事業 交流促進プログラム 居場所拡充事業
- ②交流促進事業 交流促進プログラム イベント型
- ③社会参加促進事業 育成プログラム② 社会意識ボトムアップ型

2. 過年度事業に関する評価

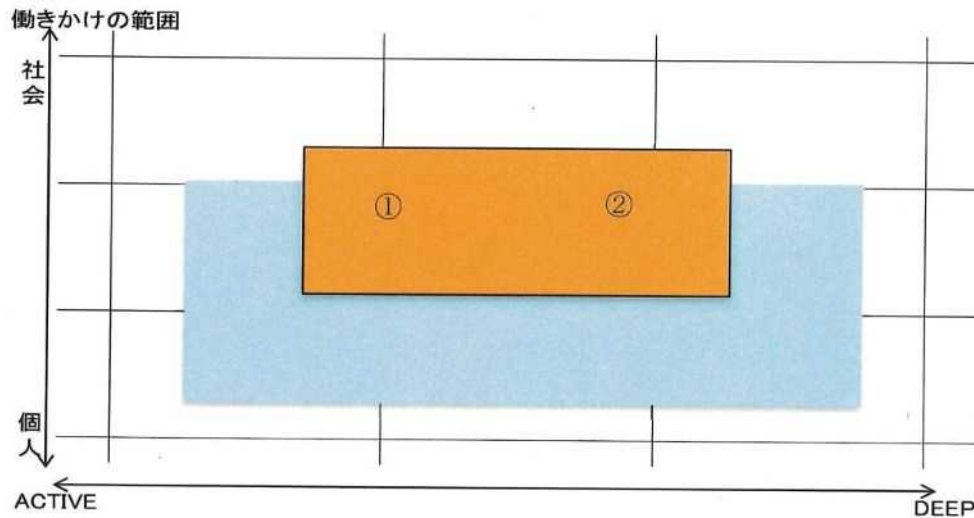
「居場所拡充事業」、「地域事業への参加」については社会情勢上、実施困難な状況であった。しかし、次年度以降を見据え、町内会との関わりや、つきさっぷプロジェクトへの定期的な参加を通じた土壌づくりを行うことが可能となった。また、コロナ禍における環境変化に伴い、ロビーでの活動内容やレイアウトの変更を実施したことで、これまで利用の多かった小中学生の利用が減り、本来主たるターゲット層である高校生世代・大学生世代の新規利用者が増加した。ロビーワークや事業を通し若者の声を聞き取る機会も増え、若者の「やりたい」を実現する事業実施が可能となった。若者の利用形態によるイメージに、スタッフ側が固執することなく関わることで表面化していない若者のニーズを知る機会が増加した。今後ターゲット層となっていく中学生世代に対しては、多感な成長過程であることを鑑み、豊平エリア児童会館と連携しながら時間をかけて職員や他利用者と多様な関わりを増やし関係構築を進める必要がある。

3. 施設運用等事業重点目標における方針・計画

「若者の居場所の選択肢・可能性をひろげていく」

Youth+豊平近隣には高校・大学が複数存在し、学生を含むファミリー層が多数生活するが、それに対し施設の利用率は低い現状がある。新規利用者を獲得し、継続的な利用に向けて、施設認知度向上のための事業展開が急務である。これは一朝一夕で成し得るものではないことをスタッフ一同認識し、ニーズをつかんだイベント開催と定期的で着実な施設周知事業を実施し、新たな利用者との出会いのきっかけ作りを積み重ねていく。また、SNS等デジタルリソース活用を進め場所の可能性を広げ、居場所としての存在感をアピールしていく。

1. 令和3年度事業座標



特色のある事業

- ①交流促進事業 交流促進プログラム 居場所拡充事業
- ②社会参加促進事業 地域の社会活動への参加促進 地域事業への参加

2. 過年度事業に関する評価

100時間イベントをとおして、幅広い層の若者の声を拾うことができ、同時に職員の視点も広がった。若者の声、ユースワーカーのかかわりをロビーに掲示することで取組みを可視化し、市民に伝えた。また、自立支援関連の相談が増えたため、きっかけを逃さないように、継続的に関わられるよう利用証のカード発行やLINE登録に努めた。

親でもない担任教員でもない初めて会う大人（講師）から、将来について考える機会を提供し、新たな刺激を与え、若者の背景を踏まえながら、職員が一丸となり声をかけることもできた。

アウトリーチ事業については高校へのアプローチを強化し、ミニイベントをはじめ事業の広報を実施した。貸室利用やマスク贈呈などの学校との出会いを大切に、そこから関係構築を図り事業周知を行った。一方で若者の声を広く市民に発信することが課題である。掲示している「数字でみる社会」のコメントをラジオで配信するなど今後展開をしていきたい。

居場所拡充事業については、今年度事業で関係構築を進めた団体も含め開拓していく必要がある。

3. 施設運用等事業重点目標における方針・計画

「地域と共存していることを意識する」

既存事業においても、地域という視点を加えた展開をする。町内会や外部機関とどのような展開が可能なのかを意識しながら、地域性が高い児童会館への移転を、Youth+宮の沢の価値や資源を高めしていく好機と捉える。

居場所拡充事業については協働する理由や手段を明確にし、外部機関との関係構築に努める。

6. 事業実施計画書（施設運営等事業）

(1) 若者支援施設全施設共通

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容（対象・参加人数等）	時期・回数	収益	費用
1	プロジェクト型 交流促進事業 フィールド型 出張ユースワーク事業 交流促進事業 (継続)	ユースワークを必要とする学生(主に高校生年齢)に早期に出会い、若者支援を届ける。学校や生徒のニーズに合わせてケースワークおよびグループワークを展開し、学校・家庭以外の居場所、自己実現の機会を提供していく。 校内居場所型・定期訪問型・随時訪問型の3つの手法を用いて、それぞれの学校に合った連携体制の構築を図る。 [令和3年度実績予測] 市立札幌大通高等学校、有朋高等学校、西高等学校(定時)、北高等学校(定時)、北広島西高等学校など	【令和2年度実績予測】 通年・10校	0	100
			【令和3年度】 通年・10校	0	50
2	プロジェクト型 交流促進事業 フィールド型 キッチンカー事業 (レベルアップ)	様々な課題を抱える若者が集まる拠点にキッチンカーで向かい、地域の方々や他団体と連携して「食」を介した交流機会(カフェ部活動)を展開していく。支援対象となる若者を早期に発見していくとともに必要な支援先へとつなげていく。各拠点においては、新たな人材を発掘し、支援者として必要なノウハウを継承していく。また、カフェ部活動のほか、他事業、他プロジェクトにおいて、キッチンカーを広告塔として活用し、市民に対してのYouth+認知度向上を図る。 ※キッチンカーリース期間は、4月～10月を予定。	【令和2年度実績予測】 通年随時	0	1,300
			【令和3年度】 通年随時	0	1,346
3	プロジェクト型 交流促進事業 居場所型 Youth+にじいず札幌 (継続)	自身の性に悩む若者に向けた、性別や所属などにとらわれずに参加できる居場所の提供を行う。また、シンポジウムおよび若者を対象にした勉強会を実施する。勉強会においては若者のニーズに合った情報を提供するものとする。運営においては、にじいろほっかいどう・L-Portなど外部団体と協働する。	【令和元年度実績予測】 12月までの実績7回 実績予測3回	0	120
			【令和3年度】 通年・月1回 シンポジウム年1回 勉強会年1回	0	80
4	プロジェクト型 社会参加促進事業 育成プログラム(提案型)オープンミーティング (継続)	市民と共に若者の権利について対話する機会を設け、若者の権利尊重の獲得を目指していく。若者を「招かれるべき当事者」に位置付け、自身の権利理解や自らの世代にとって必要な社会資源や活動のフィールドを考える機会とする。 [対象] 概ね15歳～24歳程度の若者および市民(関係団体や地域住民の大人世代)	【令和2年度実績予測】 12月までの実績1回 実績予測1回	0	100
			【令和3年度】 通年1回以上	0	100

(1) 若者支援施設全施設共通

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容（対象・参加人数等）	時期・回数	収益	費用
5	プロジェクト型 社会参加促進事業 育成プログラム（プロ ジェクト型）ユース ワーカー養成講座 （継続）	大学生世代を対象に、講義形式・実 習形式で行うユースワークの担い手を 育成するための講座を開催する。 【対象】学習支援やボランティアに参 加している大学生、職員等	【令和2年度実績予測】 12月までの実績16回 実績予測8回	0	100
			【令和3年度】 年8回以上	0	100
6	プロジェクト型 社会参加促進事業 こども・若者の権利 フォーラム （継続）	若者が「子ども・若者の権利」を テーマに、意見表明していくことの大切 さや、若者支援に関する取り組みを 広く社会に発信していくことを目的と して、市民参加型の連続フォーラムを 行う。若者若者支援の必要性をユース ワーカーが市民とともに検討する機会 を作る。	【令和2年度実績予測】 12月までの実績0回 実績見込み1回	0	380
			【令和3年度】 年2回以上	0	380
7	プロジェクト型 社会参加促進事業 育成プログラム（初期 体験型） 社会共創ワークショップ （レベルアップ）	社会活動に興味・関心のある若者 が、活動フィールドを持つ大人の活動 や地域について学ぶとともに、協同活 動の企画・実践から社会参加および参 画を行っていく。 【対象】 概ね15歳～24歳までの若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績2回 実績見込み2回	0	150
			【令和3年度】 年間1フィールド （概ね半年程度）	0	150
8	プロジェクト型 調査・研究事業 若者の意識・実態把握 および施設利用者満足 度測定アンケートの実 施 （レベルアップ）	施設ニーズなどの把握を目的とした 貸室満足度を測定するアンケート調査 を実施し、調査結果に対してプロジェ クトメンバーで考察をする。調査結 果・考察を踏まえ、若者の意見や要望 を取り入れることにより、若者の施設 運営に対する参画意識を育む利用者モ ニタリング事業と連携しながら施設環 境の向上・整備を行う。	【令和2年度実績予測】 12月までの実績1回 実績見込み1回	0	160 170 100 150 144
			【令和3年度】 10月・1回	0	160 170 100 150 144
9	プロジェクト型 交流促進事業 他都市との交流実践・ 意見集約 （新規）	Youth+を利用する若者と他都市の 若者支援施設を利用する若者を、オン ラインなどを活用し、意見交流を図 る。他都市との交流を通して、若者自 身の視野を広げるきっかけとするとと もに、若者の意見を深掘りする機会と する。	【令和3年度】 通年4回程度	0	0
				0	50

(1) 若者支援施設全施設共通

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容 (対象・参加人数等)	時期・回数	収益	費用
10	プロジェクト型 調査研究事業 若者の声発信 (新規)	Youth+を利用する若者たちのリアルな姿を各種媒体を通じて関連施設や学校、全国の施設へ、発信することで、札幌の取り組みを広く周知し、Youth+が持つ社会的役割の意義を伝えていく。エピソードの発信により施設の質的評価を高めていく。また、全国の取り組みをリサーチし相互に技術向上を進める。	【令和3年度】 通年・随時	0	0
					セ 1,000
11	自立支援事業 自立支援相談 (レベルアップ)	困難を有する若者が適切な相談につながるきっかけをつくることを目的として、Youth+全館で個別支援を行う。 [実施事業] ・複数の有資格者を配置し、個別相談を行う。 ・オンラインも活用しながら相談支援を展開する。 ・適切なタイミングで支援に最適な機関へつなぐ。 ・相談者向け満足度調査を行う (年1回)。 [対象] 概ね15歳～39歳の若者とその家族等	【令和2年度実績予測】 通年・随時 新規登録：276名 (うち30名は他Youth利用) 進路決定：274名 【令和3年度】 通年・随時 新規登録：400名 (うち35名は他Youth利用) 進路決定：345名	0	0
				0	0
12	自立支援事業 自立支援プログラム (レベルアップ)	相談者一人ひとりの社会的自立に向けて、適切なアセスメントを行うことを目的として、グループプログラムを行う。また、オンラインも活用して実施する。 [実施事業] ①初期支援プログラム (SS塾・創作会・女子会・YOGA会・対人イハ・いとこんち等) ②就労支援プログラム (ワカズファーム・職場体験報告会・ワカズチャレンジ) ③各種セミナー (就活イハ・労働法・ビジネスマナー・心理士に学ぶストレス解消法・お仕事セミナー等) ④キャリアアップ応援プログラム (お仕事座談会等) ⑤家族の会 [対象] 自立支援事業登録者	【令和2年度実績予測】 通年 ①初期支援プログラム：週2回 ②就労支援プログラム：週2回 ③各種セミナー：月4回 ④キャリアアップ応援プログラム：月1.5回 ⑤家族の会：月1回 【令和3年度】 通年 ①初期支援プログラム：週2回 ②就労支援プログラム：週2回 ③各種セミナー：月4回 ④キャリアアップ応援プログラム：月1.5回 ⑤家族の会：月1回	0	セ 340
				0	セ 347

(1) 若者支援施設全施設共通

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容 (対象・参加人数等)	時期・回数	収益	費用
13	自立支援事業 社会体験機会創出事業 (継続)	市民とも行う支援体制を構築することを目的として、伴走型で若者の体験活動や個別支援を行う。また、ボランティアの育成・支援を行う。 [実施事業] ・地域ボランティアや企業、地域団体等の協力を得て、ジョブトレーニングやボランティア体験の実施をコーディネートする。 ・ボランティアの研修等を行う。 [対象] 自立支援事業登録者	【令和2年度実績予測】 通年・随時 ○参加者延べ数：905名 ○体験受入れ企業数：23社 ○ボランティア登録数：59名	0	セ 2,503
			【令和3年度】 通年・随時 ○参加者延べ数：1,200名 ○体験受入れ企業数：40社 ○ボランティア登録数：60名	0	セ 2,836
14	自立支援事業 中学校卒業者等進路支援事業 (継続)	切れ目ない支援体制を構築することを目的として、学校や関連施設・団体と連携する。 [実施事業] ・学校や関連施設等へ訪問して周知活動を行う。 ・連携を図りながら継続的な連絡・相談を行う。 [対象] 中学校・高校の卒業時または高校中途退学時に進路未定の若者	【令和2年度実績予測】 通年・随時 ○新規情報提供：74名 ○過年度継続：69名	0	セ 30
			【令和3年度】 ○新規情報提供：50名 ○過年度継続：50名	0	セ 130
15	自立支援事業 セミナー等の開催 (継続)	自立支援事業の周知・啓蒙・人材育成を目的として、各種広報事業を行う。 [実施事業] ①出張説明・相談会：月1回のオンライン、年4回は区民センターにてKacotam・ひきこもり地域支援センター・精神保健福祉センター、生活就業支援センター等と合同開催する。 ②一般市民向けセミナー ③支援者向けセミナー [対象] 自立支援事業対象者や支援者等	【令和2年度実績予測】 通年 ①出張説明・相談会：年16回 ②一般市民向けセミナー：年1回 ③支援者向けセミナー：年1回	0	セ 120
			【令和3年度】 通年 ①出張説明・相談会：年16回 ②一般市民向けセミナー：年1回 ③支援者向けセミナー：年1回	0	セ 575
16	自立支援事業 地域若者サポートステーション事業 (継続)	就労支援体制の充実を目的として、職業的自立に向けたキャリアコンサルティングや就職支援プログラムなどを実施する。(厚生労働省事業) [実施事業] ・地域若者サポートステーション事業の受託・実施 [対象] 15歳～39歳までの若者、40代の就職氷河期世代	【令和2年度実績予測】 通年・随時	セ 36,901	セ 36,901
			【令和3年度】 通年・随時	セ 36,901	セ 36,901

(1) 若者支援施設全施設共通

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容 (対象・参加人数等)	時期・回数	収益	費用
17	自立支援事業 子ども・若者支援地域協議会 (継続) ※こども事業課連携事業	切れ目のない自立支援ネットワークを構築することを目的として、地域協議会の調整機関として、構成機関および地域の民間支援団体のコーディネートを行う。 [実施事業] ・実務者会議の開催 ・代表者会議への参加 ・子ども・若者支援セミナーの開催 [対象] 子ども・若者支援地域協議会構成機関	【令和2年度実績予測】 通年・随時 ①実務者会議：年4回 ②代表者会議：年1回 ③子ども・若者支援セミナー：年1回※「広報セミナー等」参照	0	0
			【令和3年度】 通年・随時 ①実務者会議：年4回 ②代表者会議：年1回 ③子ども・若者支援セミナー：年1回※「広報セミナー等」参照	0	120
18	自立支援／市交流促進 ／社会参加促進事業共通 情報コーナーの設置 (継続)	若者団体および社会参加に関する情報を収集し、ロビーで自由に閲覧したり、資料等を配架したりできるコーナーを配置する。	【令和2年度実績予測】 通年・随時	0	0
			【令和3年度】 通年・随時	0	0
19	自立支援／市交流促進 ／社会参加促進事業共通 ホームページ管理 (継続)	施設ホームページSNSを活用し、施設の利用案内のほか、利用者が求める情報に手軽にアクセスできる体制を構築する。	【令和2年度実績予測】 通年・随時	0	350
			【令和3年度】 通年・随時	0	350
20	交流促進事業 若者団体ネットワーク構築 Youth+NET構築 (継続)	Youth+を利用する若者団体や様々な拠点で活動する協働(連携)団体における幅広い情報を収集し、各団体や市民へ向けて意図的に情報流通を図っていく。また、Youth+および各団体双方にとって、メリットのある情報発信を行い、Youth+が身近な施設であるということを確認してもらう。	【令和2年度実績予測】 通年随時	0	0
			【令和3年度】 通年随時	0	0
21	交流促進事業 若者の交流相談 ロビーワークの実施 (継続)	ロビーを利用する若者に対し、ワーカーが意図を持って介入し、若者一人ひとりに合わせ関係構築を図る。併せて、日々の実践を記録化し、館内および全館にて情報共有を行いケース検討へとつなげ、職員の専門性の向上とノウハウの蓄積を図る。	【令和2年度実績予測】 通年・随時	0	0
			【令和3年度】 通年・随時	0	0

(1) 若者支援施設全施設共通

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容 (対象・参加人数等)	時期・回数	収益	費用
22	社会参加促進事業 地域活動ネットワーク 構築 地域若者サポーターの 獲得と協働 (継続)	地域住民、活動団体、専門機関等、 Youth+と協働するパートナーを獲得 し、ネットワークを構築する。多方面 でパートナーとの協働および連携事業 を展開していく。	【令和2年度実績予測】 登録数：100名 外部団体との協働事業：10回 通年・随時	0	0
			【令和3年度】 登録者：100名 外部団体との協働事業：10回程度 通年・随時	0	0
23	さっぽろ若者支援ネッ トワーク構築事業 若者支援施設運営協議 会の設置および開催 (継続)	外部委員等により構成される会議体 を運営し、事業や管理業務等の状況報 告および運営水準の向上に係る協議を 行う。また若者支援方策の調査研究を 運営するうえでの方向性の検討を行 う。	【令和2年度実績予測】 7月・11月・3月の3回	0	115
			【令和3年度】 7月・11月・3月の3回	0	115
24	社会的自立に関する調 査研究事業① テーマを決めた調査研 究 (継続)	若者支援施設運営協議会と連携しな がら、利用者登録申請用紙裏面アン ケートや事業実施後のアンケートおよ び関係機関へのヒアリングなどを踏ま えた調査・分析を行い、若者や社会 ニーズに即した施設運営を図る。 ※若者支援施設全館を代表して担当の 配置およびプロジェクトチームを設置 する。(担当者が運営協議会にて報告 を行う)	【令和2年度実績予測】 12月までの実績2回 実績見込み3回	0	100
			【令和3年度】 通年・3回	0	100
25	社会的自立に関する調 査研究事業② 若者を取り巻く環境の 調査 (継続)	若者支援に関連する事業調査や実践 研究を目的に、全国の同業者組織等へ 職員を派遣する。派遣先で得た情報や 調査・研究内容を踏まえ、若者を取り 巻く社会ニーズに応じた事業を試行す る。また、社会ニーズに対応できるよ う、職員の専門性の獲得の機会を設け る。 [令和3年度実績予測] ・CDA資格講習 ・認定心理士資格講習 ・法政大学平塚教授科研の参加 ・全国ユースワーク実践4団体 意見 交換 他	【令和2年度実績予測】 通年・随時	0	1,000
			【令和3年度】 通年・随時	0	445
26	社会参加促進事業 学習支援ボランティア の養成 (継続)	「まなべえ」学習支援ボランティアサ ポーターの社会参加意識の醸成を目的 に実施する グループワークの計画立案及び運営補 助やサポーターへの個別面談や振り返 り会におけるスーパーバイズを行う [対象] 大学生50名 (各館10名)	【令和2年度実績予測】 12月までの実績26回 実績見込み35回	0	0
			【令和3年度】 通年・41回 学習支援37回、個別面談2回 振り返り会2回	0	0

(1) 若者支援施設全施設共通

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容 (対象・参加人数等)	時期・回数	収益	費用
27	社会参加促進事業 さっぽろ青少年女性活動協会連携事業 (継続)	当財団内における連携を行い、子どもや若者に関わる知識やそこに携わる人材の育成を目的とする。	【令和2年度実績予測】 12月までの実績0回 実績見込み1回	0	0
			【令和3年度】 通年・随時	0	0
28	その他事業 インターンシップ・実習生の受け入れ (継続)	若者支援に携わる人材育成や認知度向上のため、依頼に応じて大学生インターンシップや職場実習を受け入れる。依頼元の機関と連携し、実習計画にもとづく受け入れを行う。 ・大学生インターンシップ 等	【令和2年度実績予測】 12月までの実績8回 実績予測12回	8	0
			【令和3年度】 通年・随時	10	0
29	その他事業 視察受け入れと講師派遣 (継続)	外部からの依頼に基づき、視察・見学の受け入れやスタッフの講師・委員派遣等を行う。 【令和3年度実績予測】 ・視察受入（各都道府県市町村、大学、専門学校、高校、ハローワーク、市保護自立支援課、障がい者支援事業所、各種法人等） ・講師派遣（内閣府、厚生労働省、各都道府県市町村、大学、高校、中学校、市教育委員会、市児童相談所、市障がい福祉課、各種法人等）	【令和2年度実績予測】 12月までの実績11回 実績見込み24回	231	25
			【令和3年度】 通年・随時	300	25
30	その他事業 若者の住居支援事業 (継続) ※こども育成課 ・こども事業課連携事業	家庭からの自立を必要とする若者や児童養護施設等を退所した若者への自立支援を目的とし、生活活動機会および自立に向けたサポートを行う。 【実施事業】 ・拠点型住居支援事業「いとこんち」の運営。 ・外部団体・個人との協力・連携体制の構築。 【対象】 おおむね13歳～19歳までの子ども・若者、児童養護施設等の出身者は24歳まで、子育て中のひとり親は29歳まで ※必要経費については、こども若者応援基金を活用	【令和2年度実績予測】 通年・随時	0	0
			【令和3年度】 通年・随時	0	0

(1) 若者支援施設全施設共通

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容 (対象・参加人数等)	時期・回数	収益		費用	
31	その他事業 環境への取り組み (継続)	環境配慮に係る周知および啓発等を行い、共に考え、行動するための機会を提供する。周知および啓発等を行う。 また、環境行動マニュアルに基づいた施設運営を行う。	【令和2年度実績予測】 通年・随時	0		0	
			【令和3年度】 通年・随時	0		0	
32	その他事業 システム環境の整備 (継続)	施設管理を中心とした業務フローの見直しや業務のシステム化・デジタル化を図り、市民への利便性の向上および事務の効率化を進める。	【令和2年度実績予測】 通年・随時	0	セ	500	
			【令和3年度】 通年・随時	0	セ	200	
33	自主事業 飲料等の販売 (継続)	利便性の向上および収益確保のため、対面による飲料等の販売や自動販売機の設置を行う。 なお、収益は若者のニーズを反映させた備品更新等に充てる。	【令和2年度実績予測】 通年・随時	セ ア ポ 豊 宮	960 300 288 420 180	セ ア ポ 豊 宮	300 240 216 516 60
			【令和3年度】 通年・随時	セ ア ポ 豊 宮	420 300 252 375 450	セ ア ポ 豊 宮	360 240 216 375 430

(2) Youth+センター (札幌市若者支援総合センター)

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容 (対象・参加人数等)	時期・回数	収益	費用
1	交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 (継続)	社会情勢によって減少している若者の居場所に対し、若者の思いをくみ取り実施できる機会を創出することで居場所づくりを図る。 [実施事業] ・10代みんなのイラスト部、You食、イベント企画ボード、ミニイベント [対象] 主に15歳～34歳までの若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績55回 実績見込み18回	0	53
			【令和3年度】 通年・月6回以上	0	60
2	交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 「居場所拡充事業」 (レベルアップ)	居場所を求める若者の情報を集め、地域の施設、教育機関を中心に施設外においてユースワークを展開するための調査を実施する。また、連携先にユースワークの理念を共有する。 [実施事業] ・ミニプラ (ミニユースプラス) [対象] 主に15歳～29歳までの若者、市民の方	【令和2年度実績予測】 12月までの実績53回 実績見込み26回	0	20
			【令和3年度】 年2回以上	0	20
3	交流促進事業 交流促進プログラム イベント型 (継続)	施設という枠組みにとらわれず、外部発信型の事業を展開し新規利用者の獲得を目指す。 [実施事業] ・森キャン (当日)、センター祭 [対象] 主に15歳～34歳までの若者、市民の方	【令和2年度実績予測】 12月までの実績11回 実績予測1回	5	140
			【令和3年度】 年2回以上	30	200
4	交流促進事業 交流促進プログラム グループ育成型 (レベルアップ)	若者が主体となり、自らのやりたいことを中心としてグループ活動の機会を創出する。 [実施事業] ・(継続) 森キャン ・(新規) 新規グループ [対象] 主に15歳～34歳までの若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績34回 実績見込み18回	0	45
			【令和3年度】 2グループ以上	0	75

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容 (対象・参加人数等)	時期・回数	収益	費用
5	社会参加促進事業 地域の社会活動への参加促進 地域事業への参加 (継続)	地域活動ネットワークから得た地域ニーズを、ロビーワークを通じて若者に周知し、地域事業への参加を促す。導入及び事後のフィードバックを適切に行ない社会意識の醸成を図る。 [実施事業] ・さっぽろ祭り など [対象] 主に15歳～34歳までの若者、市民の方	【令和2年度実績予測】 12月までの実績0回 実績予測0回	0	0
			【令和3年度】 通年・随時	0	0
6	社会参加促進事業 育成プログラム① 初期体験型 (継続)	若者が主体的な活動を行うことで、集団内での意思表示や自治意識を育む機会とする。 [実施事業] ・装飾委員会 (館内環境整備) [対象] 主に15歳～29歳までの若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績11回 実績見込み12回	0	40
			【令和3年度】 通年・5回以上	0	20
7	社会参加促進事業 育成プログラム② 社会意識ボトムアップ型 (継続)	新聞・SNS・パブリックコメントなどを活用し、若者が社会情勢に触れ、社会問題を自ら選定・問題提起できる機会を創出する。 [実施事業] ・トピックワークショップ [対象] 主に15歳～34歳までの若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績13回 実績見込み5回	0	20
			【令和3年度】 年12回	0	20

(3) Youth+アカシア (札幌市アカシアセンター)

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容 (対象・参加人数等)	時期・回数	収益	費用
1	交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 (レベルアップ)	若者が安心して参加・交流することのできる居場所づくりを行う。若者から意見を収集し事業へと反映させていくとともに、若者同士がお互いにポジティブな影響を与えられる機会を創出していく。 [実施事業] ・アカシアTIME ①アカシアGAMECLUB ②自習室FREEDAY ③体育室FREEDAY [対象] 主に15歳～24歳までの若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績58回 実績見込み82回	0	60
			【令和3年度】 通年・月8回以上	0	50
2	交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 「居場所拡充事業」 (レベルアップ)	さまざまな理由から施設で出会うことの難しい若者や児童会館卒業者を対象に、地域の中で安心できる居場所(拠点)や機会を提供していく。また、地域の中で信頼できる大人を発掘し、若者にとって必要な新たな出会いを創出していく。 [実施事業] ・ミニプラ ①ぼぶ会 ②からんこえ ・出張ユースワーク [対象] 主に15歳～20歳までの若者・市民	【令和2年度実績予測】 12月までの実績41回 実績見込み59回	0	7
			【令和3年度】 通年・月2回程度	0	72
3	交流促進事業 交流促進プログラム イベント型 (継続)	若者の小さなやってみたいを形にすることで、成功体験(自己実現)となる機会を提供する。様々な層の若者が接点をもつ場づくりを創出する。 [実施事業] ・ミニライブ ・ワークショップ [対象] 主に15歳～24歳までの若者・市民	【令和元年度実績予測】 12月までの実績0回 実績予測3回	21	61
			【令和2年度】 年5回程度	5	25
4	交流促進事業 交流促進プログラム グループ育成型 (レベルアップ)	若者が意欲的に参加・交流することのできる居場所づくりを行う。活動をとおして、仲間意識や所属意識を醸成し、自らも居場所づくりに参画する機会を創出する。 [実施事業] ・みんなのアカシア○○部 ①着物部 ②写真部(仮) [対象] 主に15歳～22歳までの若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績7回 実績見込み◎10回	8	90
			【令和3年度】 通年・月1回以上	10	75

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容 (対象・参加人数等)	時期・回数	収益	費用
5	社会参加促進事業 地域の社会活動への参加促進 地域事業への参加 (レベルアップ)	若者が活躍できる地域フィールドを形成することを目的に、連携地域との関係性を再構築し、協働団体とともに若者の参加・参画の場を創出する。 [実施事業] ・地域連携季節事業 (企画参加) ・サタデースクール [対象] 主に15歳～24歳までの若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績13回 実績予測22回	0	30
			【令和3年度】 通年・随時	0	31
6	社会参加促進事業 育成プログラム① 初期体験型 (継続)	施設レイアウトや利用方法について、若者からの意見を引き出し反映させていく。施設に愛着をもってもらう機会とするとともに、自治意識を育む場を創出する。 [実施事業] ・アカシアデザインミーティング [対象] 主に15歳～34歳までの若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績1回 実績見込み2回	0	250
			【令和3年度】 年1回以上	0	170
7	社会参加促進事業 育成プログラム② 社会意識ボトムアップ型 (レベルアップ)	社会の事柄を取り扱った取り組みを展開し、若者自身にとって身近な社会課題を共に考える機会を提供する。若者から意見を回収し、課題解決へ向けた意見交換の場を創出する。 [実施事業] ・みんなの社会科 [対象] 主に15歳～34歳までの若者・市民	【令和2年度実績予測】 12月までの実績0回 実績見込み1回	0	20
			【令和3年度】 年4回程度	0	20

(4) Youth+ポプラ (札幌市ポプラ若者活動センター)

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容 (対象・参加人数等)	時期・回数	収益	費用
1	交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 (継続)	ロビー利用者をターゲットとし、施設を活用した事業を行う。 実施にあたっては若者の意見を反映し運営する。 [実施事業] ・ミニイベント ・ロビー活用事業 (自習・キッチンなど) [対象] 主に15歳～34歳までの若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績21 実績見込み24回 (1～3月：3回)	2	4
			【令和3年度】 月2回以上	0	45
2	交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 「居場所拡充事業」 (レベルアップ)	若者の居場所の選択肢を増やすことを目的として、協働先と連携して事業を行う。 [実施事業] ・アウトリーチ事業 (施設・家庭・児童会館など) [対象] 主に15歳～25歳までの若者 民生委員または他団体と協働で実施	【令和2年度実績予測】 12月までの実績26回 実績見込み38回 ・からんこえ1～3月 3回(予定) ・まなべえ1～3月10回	0	0
			【令和2年度】 通年12回以上	0	10
3	交流促進事業 交流促進プログラム イベント型 (継続)	若者からの意見を取り入れ、体験型の事業を行う。 実施にあたっては企画・当日の運営を若者と協働で行い、まちづくりイベント広場も活用する。 [実施事業] ・体験型事業 [対象] 主に15歳～29歳までの若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績11回 実績予測12回 (1～3月：1回)	2	2
			【令和3年度】 年4回以上	5	35
4	交流促進事業 交流促進プログラム グループ育成型 (継続)	若者の希望を取り入れ、グループ活動を通して、実行する。 実施にあたってはグループワークを取り入れて運営をする。 [実施事業] ・あそ部 [対象] 主に15歳～29歳までの若者 地域若者サポーターと協働で実施	【令和2年度実績予測】 12月までの実績7回 実績見込み9回 (1～3月：2回)	0	23
			【令和3年度】 月1回以上	1	15

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容 (対象・参加人数等)	時期・回数	収益	費用
5	社会参加促進事業 地域の社会活動への参加促進 地域事業への参加 (継続)	若者の地域への参加を目的とする。 実施にあたっては若者と地域と合同で運営する。 [実施事業] ・地域のおまつり事業 ・ハロウィン事業 [対象] 主に15歳～34歳までの若者 町内会	【令和2年度実績予測】 12月までの実績1回 実績予測1回 (1～3月：0回)	0	8
			【令和3年度】 通年・随時	0	80
6	社会参加促進事業 育成プログラム① 初期体験型 (継続)	若者が意見を表明する場を提供する。そして、意見を具現化することで若者が施設運営に主体的に関わる意識を育む。 [実施事業] ・ポプラ会議 ・利用者モニタリング [対象] 主に15歳～34歳までの若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績11回 実績見込み13回 (1～3月：2回)	0	72
			【令和3年度】 通年6回以上	0	150
7	社会参加促進事業 育成プログラム② 社会意識ボトムアップ型 (継続)	若者が社会に関心を持つきっかけづくりとする。 実施にあたっては若者の考えを引き出せるように運営する。 [実施事業] ・〇〇で社会が見えてくる [対象] 主に15歳～34歳までの若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績9回 実績見込み12回 (1～3月：3回)	0	0
			【令和3年度】 年8回以上	0	0

(5) Youth+豊平 (札幌市豊平若者活動センター)

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容 (対象・参加人数等)	時期・回数	収益	費用
1	交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 (レベルアップ)	若者が自身の興味関心を広げ、安心して過ごせる居場所づくりを目的として、若者の意見やアイデアを取り入れた交流促進となるイベントを実施する。一部事業では豊平エリア児童会館と連携し切れ目のない支援を意識した居場所の可能性を探るための事業を行う。 [実施事業] ・ロビーミニイベント ・音楽室フリーDAY ・ユープラ×ふりーたいむ [対象] 主に15歳～34歳までの若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績137回 実績見込み25回	0	20
			【令和3年度】 通年・月4回以上	0	80
2	交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 「居場所拡充事業」 (継続)	関係機関やこども若者支援団体などと連携を図り、Youth+の施設利用以外の居場所づくりを目的に、居場所に関するニーズ調査と施設の情報発信を行う。 [実施事業] ・Youth+豊平オンライン (動画の作成) ・とびだせ! Youth+ [対象] 主に15歳～20第前半の若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績0回 実績見込み4回	0	10
			【令和3年度】 年間2箇所以上の開拓・年4回以上	0	50
3	交流促進事業 交流促進プログラム イベント型 (継続)	施設の新規利用者獲得を目的としたスポーツ交流やワークショップなどを行う。実施にあたっては、若者のニーズや季節に適したテーマを選定し運営する。 [実施事業] ・クラフト講座 ・ミニライブ ・スポーツ交流会 ・仕事の入り口ワークショップ [対象] 主に15歳～34歳までの若者	【令和元年度実績予測】 12月までの実績1回 実績予測0回	0	9
			【令和3年度】 年5回以上	参 10	120

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容 (対象・参加人数等)	時期・回数	収益	費用
4	交流促進事業 交流促進プログラム グループ育成型 (継続)	共通の興味関心を通して仲間づくりの場を提供する。定期的な活動により仲間意識を醸成し、主体的な運営が可能となるようサポートする。 [実施事業] ・豊平たき火部 ・イラストサークル ・写真部 [対象] 主に15歳～34歳までの若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績23回 実績見込み11回	0	13
			【令和3年度】 半期毎・3グループ以上	参 2	40
5	社会参加促進事業 地域の社会活動への参加促進 地域事業への参加 (継続)	若者が身近な地域のボランティア活動等に参加できる基盤をつくり、体験を通じた社会貢献意識の醸成を目的とする。 [実施事業] ・町内会共催事業への参加 ・冬季地域共催事業の開催 ・貸室利用団体による発表機会 [対象] 主に15歳～34歳までの若者	【令和元年度実績予測】 12月までの実績26回 実績予測6回	参 6	68
			【令和3年度】 通年・季節違時	参 6	40
6	社会参加促進事業 育成プログラム① 初期体験型 (継続)	やりたいことや思いを形にすることによる達成感を得て、社会の一員である自分を認識することを目的として事業展開を行う。 [実施事業] ・豊平プレストミーティング [対象] 主に15歳～34歳までの若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績1回 実績見込み0回	0	備 201 消 26
			【令和3年度】 年1回以上	0	50
7	社会参加促進事業 育成プログラム② 社会意識ボトムアップ型 (レベルアップ)	社会の課題や出来事に触れ、意見を表明する機会を提供することで、社会への関心を高める。同時に世代を超えた多様な意見に触れる機会も提供する。 [実施事業] ・〇〇で社会がみえてくる ・豊平まちマップ ・町づくり×若者 スタートトーク [対象] 主に15歳～34歳までの若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績23回 実績見込み4回	0	6
			【令和3年度】 通年・3プログラム以上	0	50

(6) Youth+宮の沢 (札幌市宮の沢若者活動センター)

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容 (対象・参加人数等)	時期・回数	収益	費用	
1	交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 (継続)	若者のニーズに沿い、誰もが気軽に参加できる体験活動や交流イベントを開催し、若者にとって安心できる居場所づくりを図る。 また、若者からやりたいことが上がった際には速やかに対応し実施する。 [実施事業] ・ミニイベント ・100時間イベント [対象] 15歳～34歳	【令和2年度実績予測】 12月までの実績30回 実績見込み42回	参	11	55
			【令和3年度】 通年・月4回以上	参	10	50
2	交流促進事業 交流促進プログラム 居場所型 「居場所拡充事業」 (レベルアップ)	地域ネットワークを活用し、近隣地域との協働で施設外にも若者の居場所を展開する。運営に当たっては、協働者に若者支援について理解を深めてもらえるようにアプローチする。 [実施事業] 居場所拡充事業 [対象] 15歳～20歳の若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績0回 実績見込み0回		0	0
			【令和3年度】 年2回以上		0	105
3	交流促進事業 交流促進プログラム イベント型 (継続)	新規来館者の獲得を目的として、若者の興味・関心を引くイベント・講座を実施するほか、若者からの「やりたい」を実現し形にしていく。 [実施事業] ・スポーツ会 [対象] 15歳～30歳の若者	【令和2年度実績予測】 12月までの実績2回 実績予測4回	参	12	45
			【令和3年度】 年3回以上	参	15	95
4	交流促進事業 交流促進プログラム グループ育成型 (継続)	若者が他者との交流により新たな気づきを育むことを目的に、定期的なグループ活動を実施する。また、職員によるグループワークから、徐々に自主運営が行えるように育成をする。 [実施事業] ・Youth+eスポーツ部 [対象] 15歳～20代前半	【令和2年度実績予測】 12月までの実績5回 実績見込み11回	参	6	50
			【令和3年度】 通年・月2回以上	参	9	20

(単位：千円)

No.	事業名	目的・内容 (対象・参加人数等)	時期・回数	収益	費用
5	社会参加促進事業 地域の社会活動への参加促進 地域事業への参加 (レベルアップ)	地域若者サポーターと協働のもと社会参加・参画の場を提供することで、社会への関心を高める。 [実施事業] ・お手紙プロジェクト ・地域活動へのボランティア参加 ・ぶっちゃけトーク [対象] 15歳～34歳	【令和2年度実績予測】 12月までの実績2回 実績予測4回	0	0
			【令和3年度】 通年・随時	0	150
6	社会参加促進事業 育成プログラム① 初期体験型 (継続)	若者が意見を伝え、自分も何かを変えられる一員であると実感するために、話し合いをしながら物事を決めて活動を行う機会を創出する。 [実施事業] おさんぽ部 [対象] 15歳～20代前半	【令和2年度実績予測】 12月までの実績0回 実績見込み0回	0	0
			【令和3年度】 年6回以上	0	30
7	社会参加促進事業 育成プログラム② 社会意識ボトムアップ型 (レベルアップ)	若者が社会に関心を持つきっかけを作るために、関連する数字からそれを補助するほか、社会の一員として働くことにも着目し、啓発を図る。 [実施事業] ・掲示による啓発事業 ・社会人って何？講座 [対象] 15歳～34歳	【令和2年度実績予測】 12月までの実績7回 実績見込み10回	0	0
			【令和3年度】 通年・随時	0	45

5. 事業実施計画書（地域活動等事業）

（単位：千円）

No.	事業名	目的・内容（対象・参加人数等）	時期・回数	収益	費用
1	その他事業 若者支援関連事業の受託 (継続)	若者支援事業の拡充を目的とし、業務の発展のため関連事業を積極的に受託する。なお、受託にあたっては、その必要性などを都度協議するものとする。 また、仕様に基づき、戦略的に若者支援施設の可能性を広げるための手段とする。 新規事案が発生した場合には、起案にて伺う。	【令和3年度】 通年・仕様書による	未定	未定
			【令和3年度】 通年・仕様書による	未定	未定
2	その他事業 白石区複合庁舎 まちづくりイベント広 場等管理運営事業 (継続)	白石区複合庁舎まちづくりイベント広場の運営を受託する。市民の地域参加およびまちづくり団体などの活動の拠点として、参加団体の調整およびイベント運営の補助を行う。また、ボランティアの管理・育成のほか、ホームページの管理も行う。	【令和2年度実績予測】 通年・仕様書による	企 3,196	企 3,197
			【令和3年度】 通年・仕様書による	企 3,200	企 3,200
3	自立支援事業 その他事業 地域若者サポートス テーション事業常設サ テライトの運営 (継続)	江別市を中心として、石狩・空知管内の道央地区における就労支援体制の充実を目的として、職業的自立に向けたキャリアコンサルティングや就職支援プログラムなどを実施する。（厚生労働省事業） ※札幌地域若者サポートステーションの常設サテライトとして、仕様に含まれる予定 [実施事業] ・地域若者サポートステーション事業の受託・実施 [対象] 15歳～39歳までの若者、40代の就職氷河期世代	【令和2年度実績予測】 通年・随時	セ 9,800	セ 9,800
			【令和3年度】 通年・随時	セ 9,800	セ 9,800

管理に係る収支計画書(令和3年度)

法人・団体名 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

	科目	指定管理業務			自主事業				計
		管理費	事業費	小計	飲料販売	受託事業	サポステ事業	小計	
収入	指定管理費			181,918					181,918
	利用料金収入			19,410					19,410
	その他収入			747	1,800	3,200	36,901	41,901	42,648
	収入計			202,075	1,800	3,200	36,901	41,901	243,976
支出	人件費		131,213	131,213		3,048	32,358	35,406	166,619
	旅費・交通費		1,393	1,393			200	200	1,593
	光熱水費		14,500	14,500	5		126	131	14,631
	通信運搬費		2,114	2,114			806	806	2,920
	租税公課		17,415	17,415		2		2	17,417
	広告宣伝費		1,636	1,636			300	300	1,936
	保険料		546	546				0	546
	賃借料		4,270	4,270			140	140	4,410
	修繕費		1,250	1,250				0	1,250
	消耗品費		3,486	3,486	1,710		408	2,118	5,604
	備品費		1,040	1,040				0	1,040
	印刷製本費		0	0				0	0
	諸謝金		4,028	4,028			1,040	1,040	5,068
	委託費		12,163	12,163		150	1,477	1,627	13,790
	支払手数料		152	152				0	152
	行政財産目的外使用料			0	6			6	6
	その他	6,230	440	6,670			46	46	6,716
支出計	6,230	195,646	201,876	1,721	3,200	36,901	41,822	243,698	
利益等	収支			199	79	0	0	79	278
	利益還元							0	0
	法人税等								
	当期純利益								278

- ※ それぞれの項欄について、必要に応じて小区分を設定しても構いません。
 ※ 行が足りない場合は、適宜追加してください。
 ※ 税込みで記載してください(以下、様式4-3から4-5まで同じ)。
 ※ 「利益還元」の項には、利益のうち還元額を記載してください。
 ※ 様式4-3から4-5までにより積算内容を記載してください。

令和3年度 自主事業計画書

法人・団体名 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

札幌市若者支援施設管理業務等仕様書に定められた業務のほか、施設の設置目的を促進するため、札幌市とも協議しながら自主事業として以下のとおり実施します。自主事業は指定管理業務に支障の無い範囲で行い、事業ごとに区分して経理します。

1 飲料等の販売

利用者への利便性及び収益確保を目的として飲料および軽食等の販売を行います。販売メニューや販売方法などは若者の意見を取入れ、ニーズに即した内容を提供します。

また、販売での収益は、施設モニタリング事業での改修及び備品等の更新を通じて利用者に還元します。

※軽食の提供にあたっては食品営業許可申請や食品衛生責任者の配置等、保健所への申請を行って、安全衛生に留意して実施します。

(収入目標額 1,800千円)

2 地域若者サポートステーション事業

札幌市と協議の上、厚生労働省（北海道労働局）の「地域若者サポートステーション事業」を受託し、自立支援事業における就労支援機能を強化します。

同業務を受けるにあたり、求められる有資格者を含め適切な人数を配置するとともに、「子ども・若者支援地域協議会」の各関係機関との連携により社会的自立が困難な若者への支援を行います。（地域若者サポートステーション事業の活用については、自立支援に関する業務実施計画としても記載していますが、事業を区分経理するため再掲しています）

(受託費収入予定額 36,901千円)

3 その他の外部事業の受託

設置目的及び基本構想にかかる「自立支援」「交流促進」「社会参画」の3つの視点に資する外部主催の事業を積極的に受託し、受託に伴う予算を活用しながら施設の効果を最大限に引き出す取組みを行います。

(受託費収入予定額 3,200千円)

収入予定総額 41,901千円

自主事業に係る収支計画書(令和3年度)

法人・団体名 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

	科目	指定管理業務			自主事業				計
		管理費	事業費	小計	飲料販売	受託事業	サボステ事業	小計	
収入	指定管理費								0
	利用料金収入								0
	その他収入				1,800	3,200	36,901	41,901	41,901
	収入計				1,800	3,200	36,901	41,901	41,901
支出	人件費					3,048	32,358	35,406	35,406
	旅費・交通費						200	200	200
	光熱水費				5		126	131	131
	通信運搬費						806	806	806
	租税公課						2	2	2
	広告宣伝費						300	300	300
	保険料							0	0
	賃借料						140	140	140
	修繕費							0	0
	消耗品費				1,710		408	2,118	2,118
	備品費							0	0
	印刷製本費							0	0
	諸謝金							1,040	1,040
	委託費					150	1,477	1,627	1,627
	支払手数料							0	0
	行政財産目的外使用料				6			6	6
その他						46	46	46	
支出計					1,721	3,200	36,901	41,822	41,822
利益等	収支				79	0	0	79	79
	利益還元							0	0
	法人税等								
	当期純利益								79

- ※ それぞれの項欄について、必要に応じて小区分を設定しても構いません。
- ※ 行が足りない場合は、適宜追加してください。
- ※ 税込みで記載してください(以下、様式4-3から4-5まで同じ)。
- ※ 「利益還元」の項には、利益のうち還元額を記載してください。
- ※ 様式4-3から4-5までにより積算内容を記載してください。